

■今月の特選句

2014年9月号

おどろしき現世へ魂を迎へをり

横山喜三郎

県会議員が大泣きしたり、スタッフ細胞がストップしたり、ご先祖様から見れば驚くことばかり。横山家のご先祖様も、まあ退屈なさらんだろう。

二学期の教室少し大人びる

西をさむ

ははん、お勉強のことではないね。大人びて見えたのは、をさむ君がひそかに思いを寄せる女の子。子どもっぽいままの「をさむ」君は、結局は諦めた。

おんぶバツタ死語となりたる内助の功

伊地知寛

死語になったのは「内助の功」ですね。バツタは、おんぶされているのがオス。かつてはヒトもそうだったが、最近はしがみついていないと振り落とされる。

死ぬつもりなくて滝壺覗き見る

下嶋四万歩

ドラマがあるね。身投げするつもりで瀧壺を見た。高所恐怖症で急に怖くなった。身投げしたとして、ひっ掛りそうな木の枝もない。やあめた。

片蔭にわが影法師暗殺す

新島里子

この句にもドラマがある。里子は背後に視線を感じた。影法師だ。足早に歩けば影法師もぴたりついて来る。片蔭を見つけて殺意を覚えたのだ。

建て前は建て前土用の鰻食ふ

白井道義

本音があつての建て前です。建前は本音の対局にあるもので、この場合の建て前は、絶滅危惧種は食べないということ。本音は喰いたいということ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 腹の虫鎮める虫の時雨かな
・・・空腹という別の虫鳴く
高橋素子
- 終末はかくのごとくに眠草
・・・枕花にはネムの木の花
田中早苗
- 相撲草ここが勝負の土俵際
・・・実況中継真似て決着
工藤泰子
- 気象庁にストーカーされ野分行く
・・・温帯低気圧になるまで
高橋マキコ
- 老鷹となりてさへづり流暢に
・・・笹子の頃のトチリ懐かし
川島智子
- つんのめるほど前のめり羽抜鶏
・・・積極的な姿勢とも見ゆ
麻生やよひ
- 蟬何処数多の穴を残したる
・・・穴には使い道などあらず
梅岡菊子
- リズム感悪きも混ざり蟬しぐれ
・・・目立ちたがりの蟬やも知れぬ
金澤 健
- 老ふほどに固き頭や冷奴
・・・かと言うて脳軟化症いや
久我正明
- どことなくうれしげ台風リポーター
・・・話すふりしてメモ読んでは
高橋きのこ

秘め事は鵜匠の如に吐かされぬ
・・・性懲りもなく次の秘め事

壽命秀次

蚊遣りでは防ぎきれぬや大根足
・・・刺されて腫れて特大根足

井野ひろみ

向日葵や空を見過ぎて首垂れる
・・・立ち枯れの日を予感するかに

門屋 定

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 日雷逃げ込む蚊帳が今はない
古妻のめげぬ健啖大猛暑
一匹の蠅に邪魔され箸止める | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 流れ星ふたりで見たしいつの日か
天空を錆雲で埋め季を梅雨に
日傘さす女とともに白緋 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 意地張れどすぐに崩れて雲の峰
薬の日持病は閉所恐怖症 | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 向日葵よ悩みごとなどないのかい
西郷像犬もろともに灼けてをり
気をつけの姿勢正しく立葵 | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | つつられショートパンツの盆踊り
担ぎ手にあわせて縮む神輿かな
ビルの背に遠慮して咲く花火かな | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 礼も言はぬ倅に送る今年米
村芝居毛脛出したる稲田姫
長生きはまづ此れからと生身魂 | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | みんなの不協和音や限りなく
前列に陣取りすくふ冷素麺
帰省子のお母ただいまそれっきり | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | ぶらり人生へちまうらやむ胡瓜かな
女は溶ける男は焦げる炎暑かな | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 願い待つ気更々になく星流る
スーパームーン隠れて変身雨の月 | 石川セツコ
石川セツコ |
| 【佳作】 | 舌にある種なし西瓜の種五つ
オスプレー編隊飛行厄日過ぎ | 伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 端居してゴーヤの数が気に掛かり
鉢キウリ地球を捨てて空へ行き
熱帯夜腰を落として武士のごと | 伊藤慈秀
伊藤慈秀
伊藤慈秀 |
| 【佳作】 | 間違えて多治見に避暑に来てしまひ
河童忌やペンキ塗り立て羅生門 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |

	電車より海より滝よ身投げには	伊藤浩睦
【佳作】	エレベーター無口なる人汗臭ふ 汗拭かぬ横綱またも勝ちにけり 夏の山人の多さに驚いて	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	ゴーヤー手にメニュー思案や口苦し 一寸の無防備が仇蚊の餌食	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	梅雨明けて高貴高齢なりにけり 山や山碓氷峠の山法師 御勤めか日毎夜毎の蚊に刺され	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	オープンカフェの風にそよがせ洗ひ髪 台風の雲の切れ間を光の矢 釣り上げられ色を失ひ熱帯魚	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	鶏頭を数ふ途中で止めにけり うどん屋に杖立てかけて秋遍路 三一一忘れて蛇が穴に入る	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	球児泥だらけや夏の甲子園 水まけばとんぼうたちの寄り来たる	梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	今年また金欠病の夏休み 喫煙者世にうとまるるほこり茸 見舞客今年メロンの安かりし	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	日射病耐へて今年の熱中症 秋立つや猛暑見舞の届きけり 球児らの健闘称へて稲光り	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	大いなる獲物にすぎる蟻二匹 山裾をめくるエツチな青嵐 葉隠れの良くぞ育ちしひね胡瓜	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	主真似しか腰曲がりの我が胡瓜 同じおかず雨台風をやり過ごし 雨濡れの百日紅のシャンデリア	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	亀掬ふ手際夜店の親父なり わざわざ蚊耳許に来て唸るとは 児は語彙の危篤を叫び焼栄螺	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 無理言うなもう蟬穴に帰れない
蟬鳴くや一日一日死が迫る | 門屋 定
門屋 定 |
| 【佳作】 | 焼く人の汗も味わい鰻食う
ぼうふらや曲ったこともしてみたい | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 | 葬帰り更地一面月見草
血を吸うた蚊は乳兄弟打ちきれず | 川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 | 夏痩せて検査の数値みな下がる
秋暑し豊満美女のとなり空く
ボス猫も擦り寄るほどの大南瓜 | 菅野あたる
菅野あたる
菅野あたる |
| 【佳作】 | 鯉節の淫らな踊り冷奴
絵葉書の二円不足や帰省する | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 月見草な一んて夢二の女かな
やよ一んもやゆ一んもある月見草 | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 汗の手で顔拭き塩と楽しみり
熱射病死語となれども死人なし | 黒田忠一
黒田忠一 |
| 【佳作】 | 夏休みサインコサインタンジェント
意地張るのもうそこらまで捩じり花
曲がり角律儀に蟻の曲がり来る | 小泉花子
小泉花子
小泉花子 |
| 【佳作】 | 片陰をつまみ食ひして歩く犬
サングラス鼻の高さに難がある
ひまはりと視線合はせず立尿 | 小林英昭
小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 敵味方それぞれの神蟻地獄
地球上うすらひ如き土地合戦
遅かりし玉音なりし原爆忌 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 夏盛り打上げ花火夢心地
虫さされ草さされして墓掃除
トマトもぎここにも孫の声弾む | 佐藤義子
佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 | 藪蚊まで逃げ出す熱気御塩焼
蟬人口溢れフェンスに油蟬
阿波土佐に集中豪雨お大師様 | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 生身魂不急不要の人なれど
日に焼ける四本の足が手をつなぐ | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |

【佳作】	碁敵から貢ぎ物なり茄子五つ ノーギャラに高校野球炎天下	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	天秤にかけて物言ふ生身魂 ブレンドの香水乗せてエレベーター	白井道義 白井道義
【佳作】	どうしても捕まらないスイカの種二三コ ピーマンは人間を信じて膨らむ スイカの種逃げてコオロギになっていた	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	特保コーラーコンビニで買う薄暑かな 枕元金色うちわオリジナル 畳の間網戸開ければ風通る	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	鰻逃げ土用太郎を返上す 賽銭を投げれば強し御祭風 風死して鰻の匂い今何処	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	イケメンでなくとも鯨背夏祭 おそるおそる竹婦人抱く古ホテル	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	ごみだらけ掃除は誰が野分き跡 夏旅の予定も壊し暴風雨	高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	恥じらひてふ言の葉は死語夏来る 「今でしょう」丑三つ時の月下香	高橋素子 高橋素子
【佳作】	風鈴祭通りぬけゆく音の風 蓮見会の知らせ貼られし掲示板 ぼんぼんと三日咲いても百日草	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	七月や好奇心失ふならずの サボテンの花や老人の合掌 富士詣する夢を見るなりにけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	炎天下頭の中は摩尼車 立てたかりけりまさかの坂に避雷針	田中早苗 田中早苗
【佳作】	プールより上がれば見る気失せにけり 雨の日は殻の欲しげななめくぢり 土用丑鱧の茶漬で高楊枝	田村米生 田村米生 田村米生
	リビングに莫菴を広げて昼寝する	津田このみ

【佳作】	夏休み行く先つげず旅にでる 台風は何処へ行こうか迷想す	津田このみ 津田このみ
【佳作】	熱帯夜居ながらにしてダイエット 入れるまい大渋滞の炎暑の日 立秋や身分証なく金取られ	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	瘦骨をよけて行きけり蚊の名残 秋暑シカント右脳を上滑り 怯えるも甘えの一つ秋の雷	都吐夢 都吐夢 都吐夢
【佳作】	性別は男性と書く敬老会 敗戦忌日記に一字核と書く 床の間に捨て切れぬ本積む暑さ	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	婚礼の斯くも華やぐ厄日かな 叢雲を遊ぶ玉兔のかくれんぼ 秋彼岸赦すと言はず赦しめて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	ビル解体骨切られたり灼かれたり 蠅叩いざといふ時みつからず	新島里子 新島里子
【佳作】	初秋や又もや恋に逃げられて 身構えて二百十日の大八洲	西をさむ 西をさむ
【佳作】	急に暑！大暑できない歳となり 白球を追う後輩と熱き夏 枝豆やビールの助演つまみ賞	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	なにごとも老化老化とつくつくし おとなりの扇子の風もありがたく 蚯蚓干涸らび走り来る救急車	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	猫自慢百足し止めし猫褒める 人よりも聞き分けの良き燕の子 生きている証の一つ夏の風邪	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	とんぼの乗車待ちするモノレール 六地蔵にスタッカートの赤とんぼ 呼び鈴に一糸まとはぬ子の出でて	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	左手のピアニストに聴き入る夏の夜 ペディキュアを塗って完成夏の脚 台風に一夜強迫されてゐる	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子

【佳作】	天の川一寸法師の知恵の棹 香水の霧を腋毛に吸はせけり 炎天下乞食のごと瘦雀	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	昼寝する父のおなかを見て育つ 端居してまた現実と距離を置く 宿題は先行逃げ切り夏休	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	悲鳴あげをり首振りの扇風機 帰省子のリムジンバスのまだ見えず 星の君に読ませむと書く梶の文	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	風流を気どって見ても熱中症 風流人梅雨に濡れゆく只の人 文明も台風までは阻止しかね	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	咲き匂ふ嫁入りて三年の鹿の子百合 天井は網代づくりや花火の夜 夕焼や訃報の文字に目を凝らす	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	植木市夏蝶付録に付いて来し エレベーターたがひの汗顔見ないふり ストレスの老鶯鳴声高飛車に	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	二日酔子供の子の如くラムネ飲む 人間も死ねばゴミかと紫蘇きざむ 七夕やあすは生ゴミけふは缶	松尾軍治 松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	趣も中位なり夏の月 人住めぬ星になるかや猛暑攻む 蝸が賓客となる侘びずまい	丸山紘一 丸山紘一 丸山紘一
【佳作】	回覧板いま裸だと手だけ伸び 恐竜の頭に肉まん秋の雲 自然風聞こえは良いがエアコン故障	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	理髪屋の鏡を通る金魚売 一瞬の間に次なる花火待つ 亡霊と幽霊と血液型ちがふ	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	水槽が世界の全て目高散る 八月の空引き裂いてオスプレイ 諦めてよりほどけゆく雲の峰	百千草 百千草 百千草

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 長年のストレス晴らし蝉時雨
列島を揉みくちやし台風禍
雲の峰重ねがさねの回転寿司 | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | ひと夏がつくつく一生法師蝉
蝸は淋しいかなかな鳴くのかな
逝く夏をミンミン未練の蝉時雨 | 森 要
森 要
森 要 |
| 【佳作】 | ひろげつばなしや夏果の世界地図
これ以後は晴れと予報の残る蟬
夏惜しむ貝の砂粒払ひつつ | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 | 梅雨湿り黴殺し(カビキラー)かな吹き付けぬ
御眼鏡に適ふや否やサングラス
長老の話の長し端居かな | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 介護には手も足も出ぬ竹婦人
竹割ったやうな気骨の竹婦人
橋の下浮名を流すあめんぼう | 柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 猫笑う歓喜の踊りねぶたかな
あら嬉しおまけとうきみ差し出され
我庭に別名幽霊花咲けり | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 不真面目の真面目励行化け屋敷
化け屋敷体温奪うエコキュート
水あそび水からすれば人あそび | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 夏休み重くて軽い通信簿
汗だくの夫は着せ替え人形よ
塀越えしのうぜんかずら舞ひ落ちる | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 河骨の目覚は今日も水の上
携帯の声に驚く網戸かな
笛吹いてバス止めている神輿かな | 山本 賜
山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | ピンコロを忘れ艶聞生身魂
ちらほらと男の日傘クールビズ | 横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | ケロイドに目を背けるな原爆忌
冷奴年金ぐらし儘ならず
殖ゆるのは空家と蝉の声ばかり | 渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを |